



# シャクヤクの花びら染めプロジェクト

半分しか出荷されないシャクヤク

シャクヤクは一つの株に30本ほどの花芽を付けますが、出荷のために採るのは15本ほど。

翌年のために、葉っぱを残し、たくさん光合成をさせて株に栄養を蓄える必要があるため、約半分はつぼみの段階や花が咲いた後に花首から上を摘み取ってしまいます。

そのように大切に育てた株は、長いものでは30年を超える期間、花を咲かせてくれるのです。

廃棄されるシャクヤクに  
新たな命を吹き込む

摘んでしまったつぼみや花は、従

来は廃棄処分にされていましたが、この花びら部分を再利用できないものかという考えから生まれたのが、「シャクヤクの花びら染めプロジェクト」です。

## 農工商連携の商品開発

生産者と市、そして長野市の岡学園トータルデザインアカデミーと、学園代表の岡正子さんがデザイナーを務めるファッションブランド「エコマコ」が連携して取り組んでいるこのプロジェクト。

初夏の出荷期を過ぎたころ、廃棄されるシャクヤクの花部分を集めます。

1週間ほど天日干しした花びらを



**【写真解説】** 毎年5月下旬、収穫を終えたシャクヤク畑で、翌年の株のために残した花を袋いっぱい摘み取ります。2015年は中野青年会議所の皆さんにもご協力いただきました。

京都の染め物職人が煮立て、色素を抽出して布を染めます。布は衣服の生産過程で出る端切れなどを活用し、素敵な小物へと仕上げます。

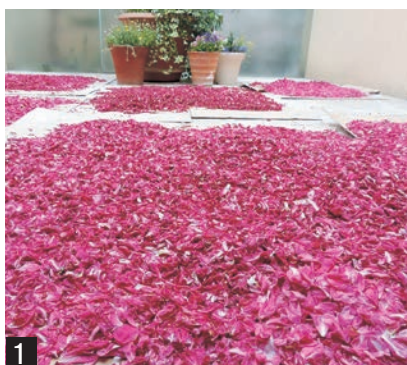
## シャクヤクの花びら染め商品

廃棄されるはずだったシャクヤクは、凛々しくも優しい色合いが顔周りを華やかに見せるストールとなつて生まれ変わります。また、シャクヤク染めの布で直径3センチほどの「花」を作り、さまざまな形で飾ったキャップ、ボールペン、ピンバッジな

どの雑貨もそろっています。1年を通して特産のシャクヤクをPR

生産量日本一のシャクヤクを市内外にPRするため、シャクヤクの花が咲く時期になると市役所の窓口職員が「シャクヤクの花びら染めストール」を着用しています。

1年の中で咲く時期が短く限られているシャクヤクですが、1年中使用できるこういった商品を通して、「市の花」であるシャクヤクを、より市民の皆さんに身近に感じてもらえればと思います。



1、2) シャクヤクの花びらを天日干しし、色素を抽出して布を染色します。3) 市役所の総合案内窓口の職員もストールを着用して日本一の産地をPRします。

## シャクヤクの花びら染め商品 市内取扱い先

- 信州中野観光センター  
 住 草間 1539-1  
 ☎ 0269-23-5581
- 信州中野いきいき館  
 住 吉田 519  
 ☎ 0269-26-1186



※信州・長野県観光協会オフィシャル通販サイト  
信州プレミアムオンラインショップ  
<http://shinsyu-premium.com/>

# 中野市農協ぶどう部会



日本農業の確立を目指し、意欲的に経営や技術の改革と発展に取り組み、地域社会の発展に貢献している営農集団を表彰する日本農業賞。31年ぶり2回目の日本農業賞大賞を受賞した中野市農協ぶどう部会の皆さんにお話を聞きました。

1 985年度に「巨峰」への取り組みが評価され、日本農業賞「集団組織の部」大賞を受賞しました。しかし、

その後は巨峰の需要が減り、生産者にとって苦しい時期になってしまいました。そこで、「シャインマスカット」の露地栽培を基本に独自の技術で長期出荷をし、「ナガノパール」や「種なし巨峰」などの新品種の販売拡大をしました。このような、積極的な取り組みがブドウの需要を大きく増やし、園芸産地の再構築や地域再生モデルになるといふことで、今回の審査で大きく評価されました。

また、この賞を同じ団体が2回受賞した例はほかにないそうです。31年たつて次世代に交代し、新たな活動で賞をいただくことができ、中野市の農業の底力を全国に響かせることができたと思います。

「信州なかののブドウ」をお客さんに「また食べたい」と言っていただけのように、一歩踏み込んだおいしさを追求し、ブランド化していきたいです。また、若い生産者にも、

どんどん新しいことにチャレンジしてもらい、一緒に中野市のブドウを発展させていきたいです。

夢は、中野市をブドウの絶対的産地にすることです。そのために、技術開発をすることや、就農者を増やす努力をするのはもちろんですが、皆さんの協力がが必要です。

農作業支援などで農業に関わってみませんか。私たちと一緒に中野市のブドウを盛り上げましょう。

